



四国霊場第76番札所 こんぞうじ 金倉寺

宣伝です。1月下旬に『正しい目標管理の進め方』（東洋経済新報社）を上梓しました。目標管理による創造的な職場マネジメントの実践テキストです。良い職場づくりを目指す実務家の道具として使っていただくことを願っています。

それはさておき、執筆中には、いろいろな想いが湧き出します。多くの方にいただいた教えや刺激がまとまるのですから、ひとつひとつの文章と記憶がつながります。そのひとつに、金倉寺での出来事があります。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

筆者は、企業人生活を終えたとき、自転車で四国遍路をしました。9月の暑い時期です。上り下りの激しい四国の道と暑さ、孤独に耐える旅でした。それを8割ほど終えたところに金倉寺があります。

太子堂で般若心経を唱え終えたとき、売店の中年女性が話しかけてこられました。

「四国を回っておられるのですか？」

「はい、会社を辞めたのを機会に」

「そうですね。40代のお遍路さんは少ないから、何か事情がおありかと思って」

「仕事を変えるケジメです」

「そうですね。私も会社を辞めたんです。勤めていた紡績会社が、中高年をイジメるので、腹が立って辞めたんです」

そこから、しばらく愚痴っぽい話をされま



▶四国霊場第76番札所 金倉寺

した。遍路中に愚痴は勘弁してほしいと思いつつも、「これも修行」と筆者は話を聞いていました。数分経過して

「でも職場は楽しかった。朝礼でしょう、小集団活動でしょう、職員旅行でしょう、運動会でしょう。働いているときは面倒だと思ってました。失業中に和尚さんが声を掛けてくださり、ここで働かせてもらってるけど、1人なんです。職場がないんです。職場は楽しかったあ」

この言葉は当時の筆者に深く入り込んだようです。良い職場づくりに挑戦する方を支える仕事。その志をもってコンサルタント業を開始しました。

今回、本を書き終えて、金倉寺の出来事を思い出し、正月に久しぶりに金倉寺を訪れました。その女性はおられず、会うことはできませんでした。しかし、たった一度の会話が人を動かすこともある。それを意識して人に話したいと、決意を新たにしました。

(MBO実践支援センター代表)

